

# ももさと 通信

2021年  
8月1日  
第2号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



## すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>  
E-mail [mososato@galaxy.ocn.ne.jp](mailto:mososato@galaxy.ocn.ne.jp)



「紀の国わかやま文化祭」に向けて

# 自己を表現する喜び 豊かなライフスタイルを

放課後等デイサービス「青空」管理者  
金城 真左志

今年の秋、和歌山県で「紀の国わかやま文化祭2021」が開かれます。

放課後等デイサービス青空では、毎年毎年積み重ねてきた書道パフォーマンスの作品を出品しようと、指導の名倉くみ子先生と計画し、今、作品づくりのための練習を重ねています。

たつぷりと墨を含ませた筆をドン！と紙の上に置き、そこからスーッと筆を滑らせて文字を書いていきます。最後の払いでは勢い好的流れで筆を逃がします。文字の正しさよりも字の表情とエネルギー感をいかに表現できるか。ここに青空での書道の真骨頂があります。

作品づくりの本番は、夏休みが中心になりますが、それまで、自分の好きな字をより多く楽しく書くことが目標です。嬉しいことに、映画『鬼滅の刃』効果もあって、子どもたちにも難しい漢字が身近になっています。字を書く楽しみが、より日常的になって欲しい、と願っています。

私たちの活動目標のひとつに文化活動があります。文化活動を通して、自己を表現することの楽しみを知り、自己肯定感を育んでいって欲しい、と願っています。文化活動が、将来にわたっての趣味のひとつになってもらえると、なお素晴らしい豊かな人生を味わえるのではないのでしょうか。

# 「保護者」とともに

## 保護者会との座談会

3園の保護者会は、園と保護者が子どもの成長などの情報を共有する場として、また、保護者同士の交流する場として大切な役割を果たしています。今回は、保護者会の役員の皆様にお集まりいただき、入園のきっかけや保育への要望などを気軽に話していただきました。

- |     |         |                 |
|-----|---------|-----------------|
| 出席者 | 平田 由紀さん | (ひまわり園保護者会会長)   |
|     | 小西 舞弥さん | (ひまわり園保護者会会計)   |
|     | 久保 由美さん | (つくしんぼ園保護者会会長)  |
|     | 野田 澄さん  | (つくしんぼ園保護者会副会長) |
|     | 永長 美子さん | (つばみ園保護者会会長)    |
|     | 内海 良子さん | (つばみ園保護者会書記)    |
|     | 林 真世    | (ひまわり園園長)       |
|     | 植田 京子   | (つくしんぼ園園長)      |
|     | 沖殿 佳子   | (つばみ園園長)        |
| 司会  | 數本 弘子   | (統括部長)          |

### 入園するきっかけは？

平田：「木の实教室」の親子教室と「くろみグループ」に通い、子どもの様子と先生から普段の様子などをお聞きし、療育を希望しました。保健師さんからご紹介していただいた3園を見学し、「ひまわり園」と「つばみ園」は「木の实教室」と一日が同じ流れで、子どもがすんなり溶け込み、伸び伸びと過ごすのが見て取れ、アットホームな雰囲気であったので、安心して預けられると思ひ希望しました。小西：子どもはダウン症で「木の实教室」に通っていました。最初は一人で座ることもできず、手遊びは聞いていただけ、散歩もバギーに乗っているだけで、しんどく思っていました。が、「木の实教室」の先生方がお話を聞いて下さり、手遊びも上手になり、水が苦手だったのに、すごく楽しむようになっていきました。進路は姉と一緒にと思い、地域の幼稚園か

保育所も考えましたが、「木の实教室」の先生から療育を進められたこともあり、桃郷の療育だったら成長できるというイメージを持ってたので決めました。

久保：橋本市に通える保育園が2か所あり見学しました。娘がどう反応するかで決めようと思ひ、最初に行ったのが「つくしんぼ園」で、集団生活をしたことがなく、人見知りもありましたが、行ったときに泣きませんでした。何よりも、帰る時に子どもたちが娘を囲んで「赤ちゃん赤ちゃんまたきてね」と言ってくれ、この子にとって、もまれて刺激になると思ひました。「つくしんぼ園」では、娘の反応も良く、先生の数も多いので迷わずに決めました。

野田：1歳6か月健診の時、初めての集団の中で泣いて健診どころではありませんでした。

九度山町に転居し、小さい町なので同じ歳の子もたちが少なく、1歳半から2歳までの少数のグループに参加し、休

まず、毎日泣きながらでも通いました。が、保健師さんから、人が多い所とか集団での行動が苦手なので、「くまの子教室はどうですか」と紹介され、日々の育児に疲れてきていた頃だったので、救いの手がかけられた思いがしました。「くまの子教室」では、泣いても自由に遊ばせていただき、その後、「あすなる教室」を紹介され、体験に行ったら、「くまの子教室」と同じ保育の考えで、先生たちもていねいで安心して任せられると思ひお世話になりました。その後の進路では、地域の保育所も視野にありましたが、「あすなる教室」の先生にご相談したときに、お友達の関わりとていねいな関わりが大切だと、「つくしんぼ園」を紹介されました。体験では、先生がていねいで、「できなくてもいいんだよ」と声掛けをしてくださり、親子ともに安心させてくれました。地域の保育所に行くのは不安だったので、園の子ども達の笑顔を見ていたら、ここは楽しいんだと思ひ、自分の子どもが成長するうえで、大事な時期なので入園を決めました。

永長：市の健診の時から多動で部屋を走り回り、発達検査の時も抜け出してしまふことがあり、保健師さんから親子教室を紹介されました。そのときは、親子教室に桃郷の保育士が来てくれていることは知りませんでした。親子教室に通っているときに、保健師さんから2事業所を紹介され、「木の实教室」の先生を知っていたこともあり、「木の实教室」に通うことにしました。進路の時は、地域の保育所か療育か悩み、地域の保育所は2か所、療育は「つばみ園」を見学し、子どもには療育のほうがいいと思ひ「つばみ園」に入園しました。

内海：今、「つばみ園」を利用している子

は第3子で、1歳になった頃、おしゃべりが遅いことに気づき悩んでいました。1歳8か月健診では、椅子に座っていられなくて健診にならなかつたのを目の当たりにしてショックを受けました。発達心理士の先生から静かな環境で日を改めてと言っていたのですが、日を改めても同じ状態でしたので、「木の实教室」を紹介していただきました。進路では、家計のことで働きたいという気持ちがあり、地域の保育所で集団に入って見てもらえれば成長するのではないかと、私も働くことで心に余裕ができるのではと思ひていましたが、その時に、「木の实教室」の先生から、「つばみ園」を紹介され体験に行きました。偏食があったので、お魚が食べられないと言ったときに、園長先生から「こつちだつたら食べられる？」とお肉のおかずを出していただき、おいしそうに食べたので、臨機応変なところがいいと思ひました。「木の实教室」の親子保育の時に、子どもができないことを目の当たりにし、保育中に私が辛くて泣いてしまった時に、先生方が声をかけてくださり頑張ることができたので、同じ系列の「つばみ園」なら、安心して子どもを任せられると思ひました。

### 入園の決め手は何か？

久保：娘の意思と第三者の意見です。橋本市での「すごいらしい」という「つくしんぼ園」の評判と、子どもが通っている大阪の母子医療センターの言語療法士の「力を入れてやってくれるのでお勧め」という言葉と、娘が楽しそうなので決めました。

野田：「くまの子教室」、「あすなる教室」、「つくしんぼ園」のつながりが信頼でき



**実際に入園しての感想、子ども達に变化があった？**

平田：入園して2年目になりますが、「木の实教室」、「くるみグループ」から保育がある朝は必ず泣きますが、最近控え

るものであり、そこで出会った先生たちなら安心して任せられると思ったからです。  
 平田：先生たちにお任せできることです。  
 小西：先生たちの人数が多かったので、ひとりきりになる時間がなく、きちんと見ていただけると思っただけです。先生たちは明るくて優しく、一日見学してこの雰囲気に通わせたいと思いました。  
 内海：この子に療育が必要と思っただけだったので、1年間の「木の实教室」での読み聞かせや手遊びと一緒に参加して、保護者も楽しめる環境を作ってくれる安心感がありました。  
 永長：親子教室から携わってくれている先生が多く、子どもが楽しんでる様子が見て取れたので、それが一番の決め手です。

めになり泣く時間も短くなりました。帰りは嬉しいのか、すごい笑顔で玄関から出てくるので、楽しい一日だったというのが伺えます。お友だちや自分以外に興味を示すようになり、先生に対しても、声を出して喜怒哀楽を表現できることを見せられるようになりました。先生を信頼して自分の居場所になっっているのが見えます。

小西：先生方が大勢いる安心感があり、決して特別扱いをしないで、みんなと同じように接してくれています。家でできないことが、園でできていたので感動します。家では野菜を食べない、歯磨きも大嫌いな、手をつないで歩かせませんが、園ではマイナスのことを聞かなくて、野菜も食べて頑張り、昨年から歩けるようになり体力がついてきました。成長はゆっくりですが、できることがどんどん増えてきています。

久保：娘は重度の心障害で、強制的におしゃぶりを吸わされていました。それが離れられず、入園時に先生に絶対おしゃぶりが必要で、吸わないと寝ないと言いましたが、先生から「いりませんけど」と言われ、おしゃぶりは受け取ってもらえませんでした。初日から「寝ましたよ」と言われ、「つくしんぼ園」に入園して3日でおしゃぶりも取れ、びっくりしました。1年間で乳児から幼児に変わりました。2ヶ月に1回ぐらい入院して、体も弱かったのですが、1ヶ月で階段を昇るようになり、足腰が強くなり、言葉もしゃべれる、なんでも食べられるようになり、目まぐるしい成長で感謝しかありません。園は休んでも入院しないようになりました。

野田：偏食があり、言葉が上手に話せないくあいさつもできなかったけど、発達が

遅くても子どものペースを尊重し、子どもの意見を聞いてくれるので入って良かったです。週1回の親子保育、ていねいにわかりやすく書いてくれる連絡ノート、パパが連絡ノートを見ても、園での様子が分かり、親子にも家族にもいいですね。先生方の経験が豊富で、一つ質問すると十答えてくれ、親のフォローもしてくれそうです。私の知らないところで、連絡ノートで、着替え、トイレができるようになっていて「本当？」って聞くこともあります。ノートをみて息子のことを信用しなければと思います。発達の遅れはいつか追いつくと思っただけですが、今はそういう考えはなく、「つくしんぼ園」に入れたことが幸せで日々感謝しています。

永長：親子教室に行っていたころからリズムや手遊びが苦手な、走り回り最後は隅っこに入ってしまうぐらい、気持ちの切り替えができなくて心配していました。そのうちに絵本が好きになり、リズムに取り組み、歌うことも好きになってきました。最近は車の中で「今日はたくさん遊んできたよ」と言い成長が見られるようになりました。時には、教室で扉を閉めバリケードを張ったりして怒っている姿がありました。今では、先生から「グループのムードメーカーになっている」と言ってもらえ驚いています。

内海：今年で3年目、2歳で入園したときは心配ごとしかなく、偏食気味で、園ではごはんメインを少し、家では白米ばかりでしたが、3、4か月後先生から「今日はナス食べたよ」といわれ驚きました。先生方がきめ細かく対応してくださり、ちょっとしたこともほめてくれる、小さな成功に光を当ててくださる、子どもの意欲につながるのではと思います。

す。ノートで、新しい食材を食べて先生にほめられたことを知り、家でも「すごいね」とほめることができるなど、親子のやり取りにも役に立ちます。「木の实教室」の先生が「つぼみ園」に来た時に「成長したね」と言ってくれることがすごくうれしかったです。

**桃郷の保育と他の子ども園、幼稚園とどう違うか 感じるころは？**

平田：今年から、2歳の娘が地域の保育所に通っています。「ひまわり園」は、連絡ノートの内容が「今日は散歩してどうだった」と一日の保育を詳しく書いてくれるので、園とのやり取りができるのが療育施設のいいところです。また、親子保育やスイミングで、親同士の関わりが密になれるので、みんな仲良しで、わが子の相談など、ちょっとしたこともしゃべってストレス解消になり、いろいろな情報ももらえます。

久保：兄は小学生で、私立の保育所に通っていました。違う所は、「つくしんぼ園」は個人を尊重してくれるところですが、その保育所とは方針が違いますが、それはそれでよく兄に合っています。行事・おたよりも、こんなことがあった、こんなことをすると細かく教えてくださり、親が関わって一緒に保育できることが楽しいし、他の園では味わえないところだと思います。

内海：桃郷は小さな成功に光を当ててくれることです。他の園と違うところは、親子保育がありますが、保育参観や給食参観がないので、子どもたちがどんな様子で、日頃保育をしてもらっているか、純粋に見てみたいです。また、就労した

一人や家庭の都合などのための延長保育や預かり保育がないので、今後検討していただきたいです。

## これから園に期待することは？

**平田**：今まで通り、子どもたちが伸び伸びと楽しい時間を過ごせる場であってほしいです。

**小西**：言葉が出ていないので、コミュニケーションをとることが難しいです。この1年間成長したので、これまでと一緒に寄り添っていただきたいです。保育時間が決まっているので、今後、働く希望もあるので、保育時間を延長し、朝夕の預かりなど融通を利かせていただけたいです。

**久保**：娘が園に入って「染色体の一部がちょっと欠けている極小欠損」と話したときに、先生から「病気だね」と言われました。病気は治療できるものですが、手がない、耳が聞こえない、目が見えない、遺伝子異常などは病気ではないので、それを言われてショックでした。先生方は、療育の現場で障害を持った子どもたちと接する機会が多いので、そういう気持ちや心の片隅に思いもらえれば嬉しいです。

**野田**：保育に関しては、とてもいいねいと思っと思っています。気になるのが親子保育、保護者教室で、親同士が顔を合わす機会が多く、そういった場所が苦手な方もいると思います。勉強会ではなく、園から離れた場所で、先生一人出てきてもらい、気軽に集まり、食事をし、雑談とかであれば参加しようかなと思っっています。お母さんもいるのではないのでしょうか。そういった集まりやすい機会があれば、お母さん方のフォローにもなるんじゃない



かなと思っいます。勉強会や懇談会など、いつもちよつと固い感じがして、参加するのが嫌というお母さんの声も聞いたことがありますので、固くないしゃべりやすい環境があれば、家族をフォローする機会になり、さらに、保護者同士の輪を繋げることになるのではないのでしょうか。

**内海**：園には感謝しかないので、保育に關してはこれからも今の環境で続けてほしいです。少しでも発達に不安のある子どもが多く入園できればいいと思っます。保護者教室や親子保育も大変だと思っこともありますが、1年目と2年目とは同じ話を聞いても受け取り方も違いが、多岐が多いので大事と思っっています。

**永長**：保育に關しては感謝しかなく希望はありませんが、新型コロナウイルス感染症が発生する前は、パパさん会があり参加するのがちよつと苦手なお父さんもいらつしやるので、ファミリーレクリエーションなどの時に、父子保育を取り入れて、子どもの話ができる機会を設けていただきたいと思っます。

## 園長としての感想は？

**林園長**：お話を聞かせていただいて、かなり保育士の対応というところで影響が

あるんだなと思っました。それと、体験や見学というところでの関わりが重要だなとも感じました。働かれています方も多くなり、変えていかなければならないこともあるし、保護者の方々のご意見に耳を傾けながら、一方で桃郷の保育の根幹の部分を受け継いで大事にしていかなければならないと思っています。また、「ひまわり園」に入園するまでに、「木の实教室」や「くるみ教室」などを通してきたという積み重ねがあつて、子ども達がセンターだけで育つていないことを園長として気にかけておかなければならないと思っています。子どもが成長したのはセンターに入る前に關わつてきた事業所と先生方の保育の影響があることを評価していききたいと思っます。

**植田園長**：どれだけしんどい思いをして療育を選んできたのかお聞きして、改めて責任を感じました。この1年一緒に子育てを考えていこうと思っっていました。が、伝えきれいなかつたことがあり、また、職員の一言の重さ、同じ気持ちのつもりでありながら、不用意な言葉もあつたこと、今日は、お母さん方に教えることがたくさんありました。

親子教室や保護者会も緊張するので、お茶を飲みながらの会も場所も必要だし、もつと、近づいて話せる園づくりをしていきたいと思っます。子どもが認めてもらえた時の嬉しさ、その毎日を積み重ねて1年たつたら、きらきらとした姿に変わるという実感を持っついていて、自信を持っつて「つくしんぼ園」の療育を誇れるようになりましたが、今日のお話を聞いて「まだまだやな」と思っました。保護者の方とともに子育てを考え、つくつていく園にしていききたいと思っます。

**沖殿園長**：いろいろなご意見を聞かせて

いただいて、とても勉強になりましたし、一杯嬉しい話を聞かせてもらいました。親子保育が楽しいとか嬉しいと聞かせてもらい、こちらも嬉しかったです。お忙しい中、親子保育に参加してもらっっているとと思っます。親子保育は、子ども達や園の保育のことを知ってもらいたいと思っています。保育士ひとり一人の力量も大事で、日々努力しています。センターに入園するまでに、「くまの子教室」、「木の实教室」、「あすなる教室」、「くるみ教室」を通つてきたという話をお聞きして、桃郷全体が連携をとつて、一つになつていかないと、お母さん方と一緒に歩んでいけなと思っました。答えが出ないことは一杯ありますが、お母さん方と一緒に考えていくことが職員の役割だと思っています。

**飯本統括部長**：一堂に會して、3センターの保護者会と園長が集まることは今までありませんでした。今後は、こういう機会を設けていききたいと思っます。保育の責任者として、保育の中心について満足だけだっていることは、とても嬉しいことなので、その気持ちを保育士にも伝えたいです。保育の質は油断すると落ちていくので、「もつとよいものがないか」「どうしたらいいか」など、お母さん方からご意見を聞き、保育士とも話し合いながら、子ども達にとつて、いい保育を目指していききたいと思っます。また、働くお母さん方が増えている中で、延長保育は桃郷の課題だと思っっていますので、また検討していききたいと思っます。今後、保護者の方々のご意見やご要望、課題を聞かせていただければありがたいです。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

## ごあいさつ



早いもので、昨年9月に「ももさと通信」を創刊して以来1年近くが経ちました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れ、当法人が運営する各事業所は、感染症予防のため、手洗い・消毒・換気・体温測定などのほか、従来からの保育の見直し、行事の縮小・中止を余儀なくされ、桃郷の理念との狭間で苦慮する一年間でした。

反面、職員間で療育・保育と行事等の見直しなどについて話し合う機会が増え、桃郷の理念に沿った療育・保育の意義が再確認できた年でもありました。

また、コロナ禍により社会に内在する問題、東京一極集中、所得格差と貧困、差別、DV、自殺者の増加などの問題が一気に浮き彫りにされました。コロナ後の社会がどのような社会であるべきなのか、まさに私たちに問いかけてられていると思います。

「止まない雨はない」といいますが、医療従事者、高齢者をはじめ一般の方々へのワクチン接種の機会が進み、遠くない時期に収束し、普通の生活に戻れることを期待し、しばらくは、新型コロナウイルスに感染しないよう心掛けていただきたいと思います。

さて、本年度は評議員をはじめ、監事、理事の役員改選があり、評議員の山田博章氏と増田久克氏が今期をもって勇退されることになりました。山田氏は、理事、評議員として23年間、増田氏は、監事、評議員として15年間もの長きにわたり、当法人を支えてくださいました。心からお礼申し上げます。

また、新しく評議員にご就任いただいた、家原みや子氏、岩原紀子氏には、中立・公正な立場から、また女性の立場から、当法人運営にご指導・ご助言いただきますようお願いいたします。

なお、私事ですが、引き続き理事長職に就くことになりました。社会福祉法人桃郷が設立され、28年が経ち、年を経るごとに、社会福祉法人としての使命の重さを痛感し、その責務の重さに身が引き締まる思いがし、利用者の方々とそのご家族、そして地域の方々に支えられてこそその法人であるという思いが募ります。不肖ながら誠心誠意職務にまい進し、与えられた使命を果たしてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 桃郷  
理事長 船木 孝明

### ご寄付等お礼

皆様がたからのご寄付、ご寄贈ありがとうございます。す。(順不同・敬称略)

紀の川市更生保護女性会  
桃山分会 (手作りマスク  
ほか)

那賀ライオンズクラブ  
(キャラクタージェッツ)  
総合社会福祉研究所 (福  
祉のひろば表紙原画・神  
門やす子氏作)

### 法人役員

法人役員は次の方々です。(敬称略)

#### ◎評議員

峰田朋子 中岡憲治  
中村博行 山名和章  
中浦秀行 家原みや子  
岩原紀子

#### ◎理事

船木孝明 田中秀樹  
藤本綾子 船木栄子  
藪本弘子 山本翔太

#### ◎監事

千田 弘 山名純一

### 第三者委員

苦情処理第三者委員は次の方々です。(敬称略)

松山義弘 藤範みつ  
千田 弘



## 桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

## 高野町との連携 「親子で楽しむ」の取り組み



あすなるつばさから高野町の委託を受け4月から12月まで月に2度行っている「らっこクラブ」。

1歳を迎えまだ子ども園などに通っていない在宅の子ども達を対象に、職員が二名高野町に出向き、健康福祉センターをお借りして出張保育を行っています。あつまりから始め、製作・クッキング・リズム・散歩などを行い親子で楽しめる活動を提供しています。

季節に応じた製作をしたり、手作りおもちゃを作ったり一緒に遊んだりして、自分の作った物に愛着を持ってもらえるように考えたりもしています。

リズムでは大好きな保護者の人とふれあい遊びをしたりしながら、楽しく体を動かせるようにしています。家ではなかなかできないクッキングも、親子でおにぎりや蒸しパンを作ってみななで食べることで、普段はなかなか食べない物も食べてくれる姿があったりします。集団の力を感じる瞬間ですね。

らっこクラブの一番のイベントは、クリスマス会。ゲストを招いて本格的なバイオリンやピアノ・和太鼓の演奏を聴いたりします。桃郷がこだわっている「本物」を体験してもらう機会を設けているのです。ゲストには、地元の方が来て下さったり、食生活改善推進委員の方が手作りのおやつを作ったり下さいます。らっこクラブは、地域の方とのつながりが多いのが特徴です。普段の保育の時にも、母子推進委員の方が来てくれお手伝いもしてくれ、みんなで子ども達の成長を見守ってくれています。

保育だけでなく、保護者学習会・交流会もする時間を設けています。発達の学習会をしたり、保護者同士で子育ての悩みを共有したりします。これも大切な時間であると考えています。

毎回保育終了後には、保健師さんと子どもの様子を共有し、子ども達の育ちについて話し合う機会を作るようにしています。

高野町には子ども園が一つしかないのですが、他の機関を知ってもらう機会と

しても役立つっており、高野町から桃郷に繋がるということもあります。

出張保育は各市町村の特徴を踏まえた上での保育を展開し、親子や集団で過ごし楽しい経験をたくさん積み重ねてもらえるよう、保健師さんと協力して行っています。

(あすなるつばさ管理者 澁川亜弓)

## つばみ園保護者教室

「主人公は園児と保護者」



つばみ園では、保護者の学習機会の保障として、年に10回程「保護者教室」を開催しています。子どもや子育てに関する様々な情報や正しい知識を得ることで、保護者の方が少しでも安心して、楽しく子育てができるように

と願って実施しています。

今回のテーマは「桃郷の歴史」ということで、船木栄子常務理事にお話しいただきました。先輩保護者や、成人を迎えた卒園児の心温まるエピソードを添えながら、桃郷の歴史についてお話しいただき、また、保護者に向けての励ましや、心に響くメッセージもたくさんいただきましたことで、参加者全員が元気をもらえる時間となりました。

保護者の声で生まれた桃郷は、保護者と共に運営しています。主人公は園児と保護者。そのことを力強く話してください、私たちにとつても再確認できる時間となりました。

(つばみ園園長 沖殿佳子)

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症の暗いニュースばかりの毎日でしたが、ワクワクン接種が始まり明るい兆しが見えてきました。桃郷の職員が予防接種を終え、普段通りの保育ができる日が待たれます。

今回3センターの保護者会が一堂に会して、子育てへの想い、桃郷への希望など忌憚のない意見を聞かせて頂きました。保護者の期待に応えられる桃郷職員でありたいとの思いが強くなりました。

(数本)

## 「発達を見つめて」

児童発達支援センター 「ひまわり園」

発達相談員 笠原 千愛

今回の発達講座は、私の日々の生活の反省と気づきについて綴っていききたいと思えます。

私は、ひまわり園で発達相談に携わらせていただきながら、家庭では三歳の子どもの育児に奮闘しています。三歳になると同時にやってきました。「イヤイヤ」の第三波です…。

着替え「ズボンから着替えたかったの〜！」食事「自分で(残した)お茶ジャーしたかった〜！」日常の至るところで「イヤイヤ」。しかし、こちら第一波・第二波を越えてきました。これまでの経験から「TVのお歌終わったら着替えよう(一旦気持ちを受け止める作戦)」「上手にジャ〜できたね〜!(褒めて上げる作戦)」「母ちゃん間違えてごめんね(謝罪作戦)」お互いが納得できる中間点を探します。

この子どもが納得できる中間点を探す力のことを「折り合いをつける力」といいます。子どもの「イヤイヤ」は、大きくなった自分を認めて欲しい、という要求が背景にあり、そんな自分を受けとめてもらうことで、相手の気持ちも受け入れられるようになっていきます。

しかし、今回の第三波。私の予想を超えています。第一波・第二波を越えて「折り合いをつける力」を獲得した我が子。褒める行為の裏にある私の「スムーズに事を運びたい」思いを敏感に感じ取り抵抗します。

子:「お着替えしないの〜」  
私:「じゃあこのTV終わったらしよか」  
(TV終わる)

子:「ズボンいやなの〜」  
私:「好きな選びよ〜」

子:「今日保育園お休みなんだよ(違う)」。  
だからお着替えしなくていいの〜」

私:(イライラ)  
子の「イヤイヤ」期:母は「イライラ」期。つい「もう!母ちゃん先お仕事行つてしまふからな!」などのおどし文句が出てしまいます…。

そんな日々が続くある朝…。我が子が「あ、父ちゃんじゃない、母ちゃんだね」と言つて目覚めました。以前は子どもが目覚めてから一緒に用意をしていたのですが、最近は起きてからでは何もできないので、寝ている間に段取りをし、起床時に私が部屋にいない朝も増えていました。また、我が子のできることも増え、親も甘えてしまうことが増えていました。

我が子のやりづらい姿を私は単純に「イヤイヤ」の発達過程によるものと思つていました。しかし、ここには「もっと甘えたい」「一緒にいたい」という我が子の願いも隠れているかもしれないと気づきました。そんな願いと「イヤイヤ」が重なって、激しく抵抗するのかもしれない。

子どもの姿が崩れるとき、なんとかしようとする表面的な行動だけに働きかけてしまいません。しかし、子どもが本当に伝えたいことは何なのだろうか?本当の願いに気づき働きかけていくことが、本当の大事な視点なのだと改めて気づくことができました。

## 社会福祉法人 桃郷

### ■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つぼみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

### ■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799

### ■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

### ■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	

### ■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター(つぼみ園に併設)			
	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023
つくしんぼ相談支援室(つくしんぼ園に併設)			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

### ■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

## 新規採用職員の自己紹介

おかざき あおい  
**岡崎 葵**

☆所属 児童発達支援センター ひまわり園保育士

☆意気込み・抱負

元気な子ども達と一緒にいると、こちらも笑顔になってしまいます。そんな子ども達の心に寄り添ってあげられる保育ができるよう、これから「ひまわり園」で精一杯頑張ります。

まるやま りな  
**丸山 里菜**

☆所属 児童発達支援センター つばみ園保育士

☆意気込み・抱負

前職の幼稚園とは全然違う保育の現場で、何もわからない状態ですが、子どもたちと共に成長し楽しい時間を共に過ごせたらいいなと思っています。

いしだ さわみ  
**石田 佐和美**

☆所属 児童発達支援センター つくしんぼ園保育士

☆意気込み・抱負

子ども達と、楽しく毎日を過ごしていきたいです。保育士として、まだまだ勉強することもたくさんありますが、自分自身も成長していけるように頑張っていきます。

いぐち ゆかり  
**井口 紫**

☆所属 放課後等デイサービス事業 青空児童指導員

☆意気込み・抱負

放デイに携わり、子どもたちの笑顔に癒やされています。私も笑顔いっぱいの楽しい「青空」にしたいと思います。頑張ります。

たかお なおこ  
**高雄 尚子**

☆所属 つくしんぼ相談支援室相談支援員

☆意気込み・抱負

どの子も生き生きと豊かな成長・発達ができるように、保護者の悩みや願いを受け止め、関係機関の方とも連携し、保護者の相談に対応していきたいです。

たむら ひとし  
**田村 均**

☆所属 児童発達支援センター つばみ園事務員

☆意気込み・抱負

未経験の職場で不慣れな点も多くあると思いますが、元気な子どもたちに負けないよう、今までの知識と経験を生かし、頑張っていきたいと思っています。

## 管理者からの施設紹介②

### 児童発達支援事業「木の実教室」

管理者 児玉 理採

☆ 施設の概要

沿革：2003年（平成15年）4月開設

住所：和歌山県岩出市曾屋370-17

定員：10名

利用者：就園前（0歳児～2歳児）

保育時間：午前9時～午前11時30分

☆ 大切にしたいこと

子どもたちが初めて出会う集団。期待や不安いっぱいの中、木の実教室を選択してくれた保護者の方々に寄り添いながら、ていねいな保育を目指しています。

ご家庭ではなかなか出来ない遊びを経験することで、“やってみたい”というワクワクする気持ちが生まれたり、子どもらしく主体的に活動する中で自信や達成感が芽生えたり……。

一人ひとりのペースに合わせながら、親子でたくさん経験を積み重ねてほしいと願っています。また、保護者の方と職員、地域の保健師さんなど、周りの関係者と連携し、共に子育てに積極的に参加できる保育を展開したいと思っています。

☆ 保育内容

外遊びや散歩をたくさん取り入れることで五感をくすぐり、身体ごと楽しむ中でしなやかな身のこなしや丈夫な身体作りを目指します。あつまりでは、手遊びをしたり、季節のうたを歌います。また、製作やクッキングなどを通して素材の変化を楽しむ活動も取り入れています。そして、子どもたちの大好きな“絵本の世界”も大切にしたいと思っています。お家の方や、お友だちと一緒に楽しい経験をたっぷり味わい、大好きなことを発見してほしいと思います。また、近隣市町からの委託を受け「出張保育」も行っています。

☆ 管理者の抱負

私は、今年度から管理者として木の実教室の配属になりました。まだまだ経験不足で、勉強の日々ですが、通ってくれるお友達の笑顔に元気をもらい頑張っています。これからも一人ひとりを大切に、楽しい保育を目指していきたいと思っています。